

地盤情報を活用した首都直下型地震に対する宅地防災検討委員会 第5回委員会 議事録

日時：令和2年9月16日（水）

時 間	14:00~16:30				場 所	Zoom 会議室			
清木 隆文 委員長	○	龍岡 文夫 顧問		王寺 秀介 幹事	○				
穴太 聖哉 委員	○	石川 敬祐 委員	○	大井 昌弘 委員	○				
落合 努 委員	○	木村 克己 委員		小荒井 衛 委員					
後藤 聡 委員	○	佐々木 修平 委員	○	芝村 圭 委員					
末政 直晃 委員		鈴木 一成 委員	○	鈴木比呂子 委員					
関口 徹 委員	○	武田 啓司 委員	○	塚本 良道 委員	○				
辻 浩平 委員	○	細川 聡美 委員		丸山 昌則 委員	○				
三上 武子 委員	○	安田 進 委員	○	山口 恵美 委員					
吉澤 睦博 委員	○	渡邊 康志 委員		和田 里絵 委員	○				
辻 昌宏 オブザーバ				西 喜士 オブザーバ					
中尾 健人 オブザーバ	○								

議事： ※委員敬称略

1. 委員長挨拶

- ・ 新型コロナの影響で委員会活動を1年延長する予定である。1年半後の成果に向けて、各WGの活動報告と今後の予定について協議していきたい。

2. 前回議事録の確認

- ・ 前回議事録の確認を行った。

3. 委員会の取組について

以下、3WGの主査と副査が実施状況について説明し、今後の実施内容について議論した。

(1) 地盤情報の収集整理・地盤モデルの高精度化に関する検討 (WG1)

- ・ 地盤情報の提供・公開のアンケート調査状況についての報告があった。
- ・ 国交省(土木研究所)と東京都との調整を今後実施する。

【今後の進め方】

- ・ 市町村へのアンケート調査実施する方向で検討する。対象自治体は、WG1内で協議する。
- ・ データ整備作業:収集したデータのDB構築や防災科研の電子データ照合の作業をお願いできる業者を探す必要がある。

(2) 地盤モデルを用いたハザードマップの高精度化に向けた検討 (WG2)

- ・ 浅草周辺について、地盤モデルを構築、横浜市みなとみらい地区について、地盤モデルを構築。浅草周辺は表層部の推定精度に課題があり、みなとみらい地区はボーリングデータの数と面的な均一な分布に課題がある。
- ・ 常総地方でも三次元グリッドモデルを作成中である。
- ・ グリッドモデルの作成プログラムの公開については、年内目途に対応中である。

【今後の進め方】

- ・ 他地区を含め、学生の研究テーマと調整を図りながら、モデルの構築を進めていく。
- ・ 書籍の内容として、グリッドモデルの作成手法とグリッドモデルを用いたハザードマップ(地震動解析、液状化解析)の作成事例(マニュアル的なもの)になるとよい。
- ・ WG 内で作成・改良した地震動検討(Dyneq)や液状化判定用のプログラムは、可能な範囲で委員会内に共有し、将来的には書籍の中に取り込むこととする。

(3) サウンディングデータの活用方法の検討 (WG3)

- ・ 台東区、荒川区付近の SWS データから断面図を作成。
- ・ SWS の調査深さは概ね 10m 程度であり、軟弱層が厚い場合は 15m 程度、固い層(N 値 15 程度)があれば浅くなる場合がある。音はデータとして保存されている。
- ・ SWS と近傍のボーリングの N 値とを比較してみてもどうか。手動・半自動・自動で調査結果の精度が変わる可能性がある。稲田式は手動式の結果から求めたものである。
- ・ SWS から求めた支持層マップと地形図、標高図の関係を調べてみた方がよい。
- ・ 千葉県美浜区の SWS データを分析中である。

【今後の進め方】

- ・ SWS データと液状化発生の有無の関係については、引き続き検討を進める。
- ・ SWS 他の現地試験は、4～5 月に実施する。実施場所、実施内容は、年内に決定する。

ー以上